

令和 3 年度 築瀬小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

＜基本目標＞

思いやりの心と自ら学び，正しく判断できる力をもった，知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成

＜具体目標（具体的な児童像）＞

ア 自ら学ぶ子（知育）

自ら学び，自ら考え，判断し，主体的に問題を解決する能力を養う。

イ 思いやりのある子（徳育）

他を思いやる心や感動する心など，豊かな心を養う。

ウ たくましい子（体育）

たくましく生きるための心身の健康と体力を養う。

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標に向け，家庭・地域の願いを踏まえ，児童と職員の共感，共汗，共歓を大切にするとともに，活気あふれる学校，やる気と自己有用感に満ちた児童，信頼される教職員を目指すことにより，達成を図る。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 活気あふれる学校

- ・ 校務分掌における取組や家庭・地域との連携を推進し，「教育目標」の具現化を図る。
- ・ 創意ある提案や意見交換により組織力を強め，学校経営への参画意識を高める。
- ・ 社会の変化に対応するため，新たなことに挑戦し，明るく前向きな職場をつくる。

(2) やる気と自己有用感に満ちた児童

- ・ 児童の内面を共感的に受け止め，安心して生活できるよう，一人一人を大切にする。
- ・ 児童が集団の中で自分を発揮し，他と協働しながら，一人一人と集団を育てる。
- ・ 児童のよさや成長を見取り，認め伸ばす指導により，自己肯定感を高める。

(3) 信頼される職員

- ・ 安全・安心な環境を整え，人権感覚を磨き，服務規律，業務の効率化を確保する。
- ・ 家庭や地域の声を聞き，問題点を速やかに改善するなど，誠意ある対応をする。
- ・ 情報を積極的に発信し，学校の姿，成果を見える化し，家庭，地域の理解を得る。

[旭地域学校園教育ビジョン]

「地域に愛される旭っ子」の育成 ～地域との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- ・ 国，県の法令や指針，市の推進計画，スタンダード，指導の重点などを踏まえ，学校経営方針に基づき，知・徳・体の調和のとれた教育活動を展開し，教育目標の達成を期する。
- ・ 社会の変化へ対応できるよう，教育活動相互の関連や地域の教育資源の活用などにより，知識及び技能，思考力・判断力，表現力等，学びに向かう力や人間性等の育成を図る。
- ・ 児童や学校経営に関する各種調査結果を，授業や学校改善に生かし，教育活動の見直し，校内外の資源活用など，実態に即した創意ある教育課程の編成につなげる。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

一人一人と集団を育てる教育の実践，組織力・同僚性による効率的な職務の遂行，家庭・地域と一体となった取組の推進などによる，活気のある信頼される学校づくり

【学 習 指 導】

他者との関わり合いを通して協働的に学ぶ

【児 童 生 徒 指 導】

基本的な生活習慣や判断力を身に付け，相手を思いやり，互いに協調しながら学校生活の向上に努める児童の育成と，自治的活動等を通じた望ましい集団づくりの推進

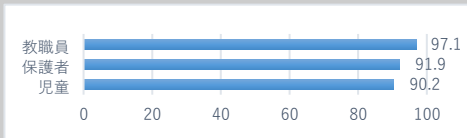
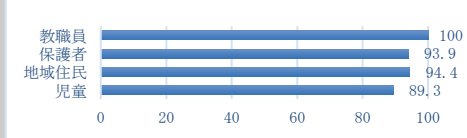
【健康（体力・保健・食・安全）】

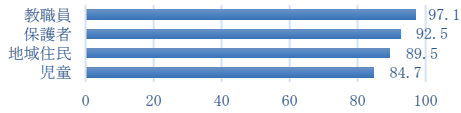
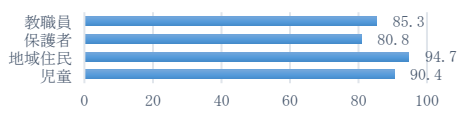
心身ともに健全で安全な生活を送るための資質・能力を備え，進んで健康・体力の向上を目指す児童の育成

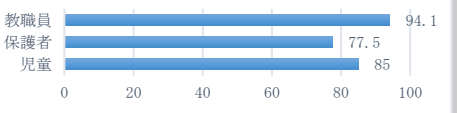
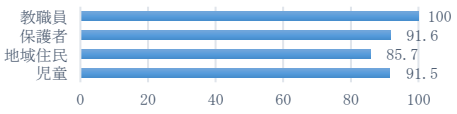
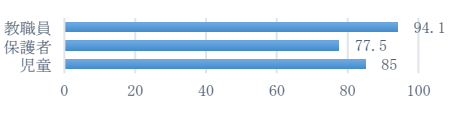
6 自己評価（評価項目のAは市共通，Bは学校独自を示す。）

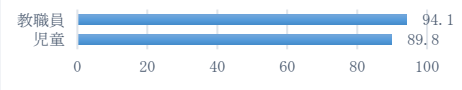
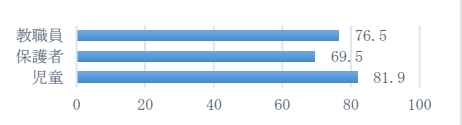
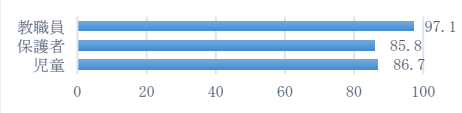
※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

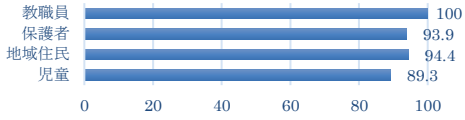
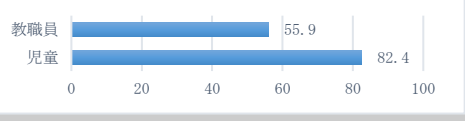
※「主な具体的な取組」の方向性には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

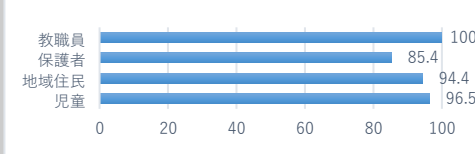
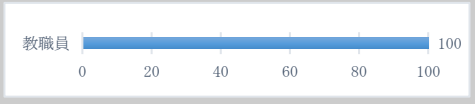
項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価									
目指す児童の姿	A 1 <u>児童は、進んで学習に取り組んでいる。</u> 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上	① <u>毎時間の授業の中で、学習のめあてを明示することで、児童が進んで学習に取り組めるようにする。</u> ② <u>児童が授業中に自信をもって話ができるよう、学年の発達段階に応じた話し方や聞き方の指導を行う。</u>	B	【達成状況】  <table border="1"><thead><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>教職員</td><td>97.1</td></tr><tr><td>保護者</td><td>91.9</td></tr><tr><td>児童</td><td>90.2</td></tr></tbody></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、指標を 10 ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 今年度も感染症対応を考慮し、話し合いの指導を十分に行うことができなかった。次年度は、可能な範囲で、話し方や聞き方の指導を含め、話し合いの機会を設け、継続した指導をしていく。 毎回の授業で、めあての達成状況を児童が振り返れるようにし、児童が自信をもって学習できるようにしていく。	対象	達成率 (%)	教職員	97.1	保護者	91.9	児童	90.2	
	対象	達成率 (%)											
教職員	97.1												
保護者	91.9												
児童	90.2												
A 2 <u>児童は、思いやりの心をもっている。</u> 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童の肯定的回答率85%以上	① <u>帰りの会等で、友達のよさを認め励まし合う活動を取り入れることで、互いに思いやりのある行動をしようとする雰囲気を高める。</u> ② <u>「やなげフェスティバル」などの縦割り班活動や、「ありがとうの会」などの行事を通して、友達や地域の方々への感謝をもち、思いやりの心の育成を図る</u>	B	【達成状況】  <table border="1"><thead><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>93.9</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>94.4</td></tr><tr><td>児童</td><td>89.3</td></tr></tbody></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては指標を 10 ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 児童会活動では、5・6年生の活躍の場を多く設け、学校のリーダーとしての自主性を育て、高学年としての自覚を高める。感染症対策で実施が難しい中でも工夫し、児童が主体的に活動できるようにすることで、思いやりの心を育む。 学級経営の中でも継続的に認め合う活動を取り入れる。	対象	達成率 (%)	教職員	100	保護者	93.9	地域住民	94.4	児童	89.3
対象	達成率 (%)												
教職員	100												
保護者	93.9												
地域住民	94.4												
児童	89.3												

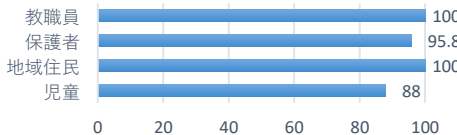
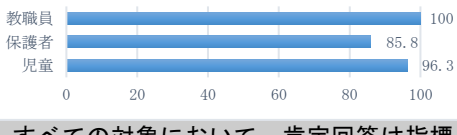
A 3 <u>児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</u> 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って、生活している」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答率 80%以上	①「<u>築瀬小学習のきまり</u>」を活用し、<u>学習準備・姿勢・鉛筆の持ち方・返事・片付け等、学習を支える技能や態度の徹底指導に努める。</u> ②「<u>築瀬小よい子の一日</u>」を活用し、<u>学校生活のきまりについて教職員が同一步調で継続的な支援に努める。</u>	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>回答率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>97.1</td></tr><tr><td>保護者</td><td>92.5</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>89.5</td></tr><tr><td>児童</td><td>84.7</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、保護者、地域住民においては、指標を 10 ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 今年度と同様の指導を続け、必要に応じて、生活目標と関連付け、指導の徹底を図る。 「築瀬小学習のきまり」に関しては、全職員が同一步調で継続指導をしていく必要がある。次年度も、重点を決めて指導するなどし、児童がきまりやマナーを守って、学習できるようにする。 今年度と同様の指導を続け、必要に応じて生活目標と関連付けて指導の徹底を図る。 基本的生活習慣に関しては、個人差が見られる。今後もきまりやマナーなどを守れるように、場面に応じて、引き続き指導を行う。 「やなせ小のきまり」を活用し、全職員共通理解の下、指導支援を充実させていく。次年度も引き続き「立腰」に取り組み、落ち着いた学校生活を始められるように努めていく。	対象	回答率 (%)	教職員	97.1	保護者	92.5	地域住民	89.5	児童	84.7
対象	回答率 (%)											
教職員	97.1											
保護者	92.5											
地域住民	89.5											
児童	84.7											
A 4 <u>児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</u> 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答率 80%	① <u>年間を通して「心のこもったあいさつ運動」を設定し、「あいさつ運動」で、意識づけを図り、代表委員や学年交代によるあいさつを推進する。</u> ② <u>登下校時等校外においても元気にあいさつできるよう、保護者・地域・中学生・旭地域学校園教職員などと連携を図り、あいさつ運動を実施する。</u>	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>回答率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>85.3</td></tr><tr><td>保護者</td><td>80.8</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>94.7</td></tr><tr><td>児童</td><td>90.4</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、地域住民、児童においては、指標を 10 ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 全職員の共通理解のもと、教職員が率先してあいさつをし、習慣化を図る。あいさつ運動を年間通して行い、児童自身があいさつする大切さや気持ちよさを体感し、あいさつの日常化を図る。感染症対応で大きな声に出してあいさつができない分、会釈について次年度も引き続き指導していく。	対象	回答率 (%)	教職員	85.3	保護者	80.8	地域住民	94.7	児童	90.4
対象	回答率 (%)											
教職員	85.3											
保護者	80.8											
地域住民	94.7											
児童	90.4											

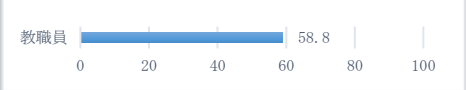
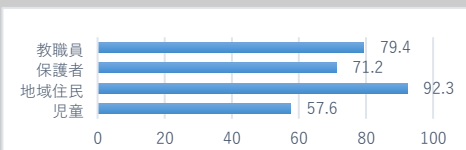
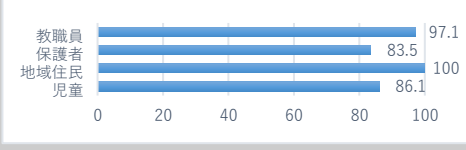
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「わたしは、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	① 毎時間の授業で学習のめあてや流れを明示し、最後まであきらめずに学習に取り組む態度の育成を図る。 ② 学習や運動で、自分の取り組みへの継続的な頑張りや伸びが分かるように、カード等の活用を図るとともに、頑張っている児童の称賛を図る。	【達成状況】  教職員 94.1 保護者 77.5 児童 85 B 教職員、児童の肯定回答は、指標を上回ったが、保護者においては、指標を2.5ポイント下回り、教職員と保護者に16.6ポイント差がある。 【次年度の方針】 今年度も、感染症対応により、保護者に児童の様子を十分に伝えることができなかった。次年度も、今年度の取組を継続し、学校での頑張り可能な限り保護者に伝えられるようにしていく。
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答率 80%以上	① <u>感染症等の予防のため、手洗いうがいの励行を推進し、また、自主的にマスクをしたり換気をしたりする意識を高める。</u> ② 安全面に気を付けて生活できるよう、登下校の際の安全な歩き方や、学校生活全体で危険を考えて危ない行動をとらないような意識を育てる。	【達成状況】  教職員 100 保護者 91.6 地域住民 85.7 児童 91.5 B すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、保護者、児童においては、指標を10ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 児童一人一人が健康や安全な生活を意識し、自ら正しい行動ができるよう、今後も継続して指導や声掛けを行う。 地域住民の方に関しては、学校での取り組みを周知するために、ホームページなどを活用していく。
A 7 <u>児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できよう努力している。</u> 【数値指標】 全体アンケートの「わたしは、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	① 生活科や総合的な学習の時間、社会科や道徳科等の授業で、自分自身を振り返る時間や、自分がどう生きていきたいかを考える時間を設ける。 ② <u>地域のよさに触れたり、身近なニュース等に関心をもたせたりすることで、社会に貢献しようとする意識を育む。</u>	【達成状況】  教職員 94.1 保護者 77.5 児童 85 B 教職員、児童の肯定回答は、指標を上回ったが、保護者においては、指標を2.5ポイント下回り、教職員と保護者に16.6ポイント差がある。 【次年度の方針】 道徳や総合的な学習の時間の充実を図り、生き方を考える時間をしっかり確保していく。さらに、児童が自分の将来を考える時間を意図的に設け、活動の工夫を図る。夢や目標に向かって努力することや社会貢献について、折に触れて児童に伝えていくよう心掛ける。

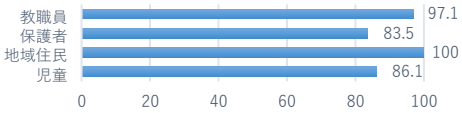
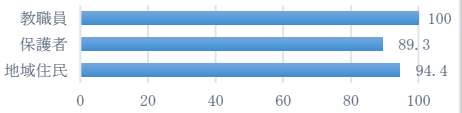
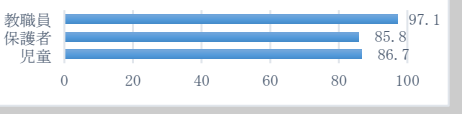
A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 80%以上	① 英単語を使った活動や、先生や友達とのコミュニケーションを通して、会話をするための英語表現に慣れ親しめるようにする。 ② 授業に限らず、階段や各教室等の掲示物を通して、児童が日常生活の中で英語に触れる機会を増やし、正誤は問わず積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、指標を 10 ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 英語に触れる機会を増やす取り組みは効果的だったので継続していく。今後も ALT と協力してコミュニケーションをとることの楽しさを味わえるように支援していく。
A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上	① 生活科や総合的な学習、社会科の学習で、地域や宇都宮の歴史や有名な場所を調べる学習を行うことで、宇都宮についての知識を深める。 ② 築瀬地区や宇都宮市に昔から伝わる伝統的な行事や、新たに企画されたイベントに参加することで、人とのつながりや行事のよさを知ろうとする態度を育成する。	【達成状況】  児童の肯定回答は上回ったが、教職員は指標を 3.5 ポイント、保護者は 10.5 ポイント下回る。 【次年度の方針】 感染症対策のために地域の行事などに参加することは難しかったが、生活・総合・社会の授業の中で、児童は宇都宮についての知識を得ることができた。今後とも継続指導していく。 保護者に向けて、学校だより、学年だより、懇談会等で、学習内容について継続的に情報を発信していく。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	① 図書室を計画的に利用したり、タブレットを使う機会を意図的に設けたりして、児童のICT機器の活用技術を高められるようにする。 ② 調べたことや自分の考えをまとめる際、ICT機器を活用し、書く力の向上を図る。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、指標を 10 ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 導入したタブレットを授業内外で活用し、児童の ICT 機器の活用技術を高めていく。活用場面を教職員で検討し、活用の定着を図る。

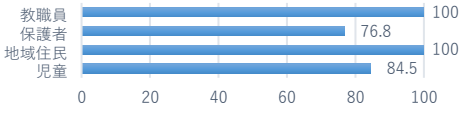
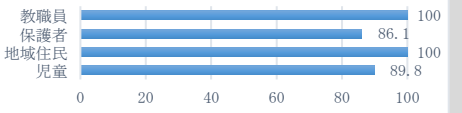
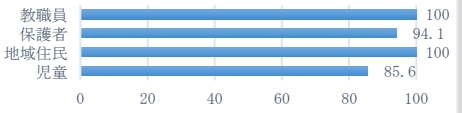
	A11 <u>児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</u> 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 80%以上	① <u>築瀬コミュニティーセンターでの交流会やふるさと教室、運動会などの学校行事などにおいて、感謝やいたわりの気持ちをもって接することができる態度を育成する。</u> ② <u>敬老会で地域の高齢者に手紙を書く活動を通して、下校の際の見守りや環境整備などへの感謝の気持ちを表現する力を育てる。</u>	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、保護者、地域住民は指標を 10 ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 今年度は未実施。次年度は、高齢者に対する感謝やいたわりの心を育てていくことができるように、学校行事や登下校、地域の行事等での活動の機会を設ける。
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について関心をもっている」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	① 各種委員会の活動を通して、全校生で古紙やペットボトルキャップの回収を行ったり、日々の生活の中での節電や節水を心掛けたりすることで、環境を大切にしようとする意識を高める。 ② 社会科や家庭科、総合的な学習の授業で、環境問題や環境を守る学習を行い、実践に向けての知識の定着を図る。	【達成状況】  児童の肯定回答は指標を上回ったが、教職員の肯定回答は指標を 24.1 ポイント下回り、児童と教職員に 26.5 ポイントの差がある。 【次年度の方針】 「持続可能な社会」に向けて学校で行っている活動について、各委員会による集会や朝会、掲示物、校内放送を通して周知を行い、児童の関心を高めていく。 社会科や家庭科等での学習も、学校で行っている活動と関連させて考えるよう指導し、家庭での実践につなげ、環境についての意識を高める。
目指す学校の姿	A13 <u>教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</u> 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① <u>特別な支援を必要とする児童の共通理解を図る場を設け、全職員が児童の実態を把握する。</u> ② <u>教材研究を進め、児童一人一人に合った授業支援の在り方を実施するとともに、必要に応じてかがやきルームやレインボールームの活用を検討する。</u>	【達成状況】  教職員の肯定回答は、指標を達成し 100% である。 【次年度の方針】 習熟度別学習の実施、かがやきルームやレインボールームの活用、支援会議等の実施を通して、児童理解と授業支援の両面から支援する場を適切に設け、継続的な指導に役立てていく。

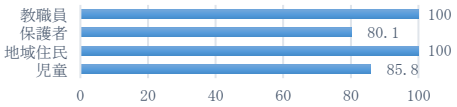
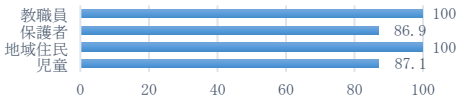
A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上	① いじめゼロ強調月間での取組を通し、いじめが許されない行為であることを指導するとともに、年2回の教育相談を実施し、児童の悩み等をきめ細かに把握し解決を図る。 ② 学級懇談時や学年便り等を通し、学校の取組を保護者に伝え協力を得るとともに、保護者や児童の思いを十分に受け止め、強い意志をもって指導に当たる。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>割合</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>85.4</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>94.4</td></tr><tr><td>児童</td><td>96.5</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、地域住民、児童は指標を10ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 いじめゼロに向け、家庭、地域と協力して取り組めるよう、家庭にどのような活動をしているかを知らせたり、児童への指導に関する情報を積極的に伝えたりする工夫を行う。保護者の肯定的回答の割合が高まったことから、次年度も標語作成や家庭に通信配付の更なる充実を図っていく。	対象	割合	教職員	100	保護者	85.4	地域住民	94.4	児童	96.5
対象	割合											
教職員	100											
保護者	85.4											
地域住民	94.4											
児童	96.5											
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上	① 児童間のよりよい関係づくりのために、Q-Uや教育相談について校内で研修を行い、それらを生かした学級経営を実施する。 ② 欠席が続く児童に対して、電話や家庭訪問を行うとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等とも連携を図り、児童に適したアプローチを継続的に行う。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>割合</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>87.3</td></tr><tr><td>児童</td><td>96.7</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、児童は指標を10ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 児童が抱える問題について早期発見に努めたり、職員全員で情報を共有したりして、引き続き関係機関等と連携を図りながら、それぞれに適したアプローチを継続的に行っていく。	対象	割合	教職員	100	保護者	87.3	児童	96.7		
対象	割合											
教職員	100											
保護者	87.3											
児童	96.7											
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① 外国人児童等の共通理解を図る場を設け、全職員が児童の実態を把握する。 ② 教材研究を進め、児童一人一人に合った学習支援を実施するとともに、必要に応じてレインボールームの活用を検討する。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>割合</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr></table> 教職員の肯定回答は、指標を達成し100%である。 【次年度の方針】 外国人児童等に必要な支援や手立てを考え、接することができた。また、児童について共通理解しレインボールームを利用することができたので、継続していく。	対象	割合	教職員	100						
対象	割合											
教職員	100											

A 17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は今の学校が好きです」 ⇒ 児童の肯定的回答率 90%以上	① 児童一人一人の話をよく聞いたり、帰りの会等で児童同士がよさを認め合う場を設定したりして、互いに認め励まし合う集団づくりを図る。 ② やなせフェスティバル、ふれあい活動、ありがとうの会、音楽集会等様々な活動を充実させることで、達成感や成就感、思いやりの心を育む。	【達成状況】  <table><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>95.8</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100</td></tr><tr><td>児童</td><td>88</td></tr></table> 教職員、保護者、地域住民において肯定回答は指標を達成したが、児童の指標は 2 ポイント下回る。 【次年度の方針】 今年度は感染症対策を取りながら行事を進めることができた。実施方法を工夫することで、より達成感や成就感をもたせ、思いやりの心を育む。 さらに、児童同士がよさを認め合う場を設定するとともに、教職員が児童のよさを認める言葉かけをすることで、互いに認め励まし合う集団になるよう導いていく。	教職員	100	保護者	95.8	地域住民	100	児童	88
教職員	100									
保護者	95.8									
地域住民	100									
児童	88									
A 18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上	① 校内研修を計画的・継続的に実施するとともに、互いの授業を見合い、意見を交換し合いながら、授業力の向上を目指す。 ② 今年度の学校課題「一人一人が主体的に取り組み、学び合う国語科の授業づくり～基礎・基本の定着と深い学びを求めて～」を図るために、少人数指導や IT による学習等、個に応じたきめ細かな指導の充実を図り児童一人一人がめあてをもち、主体的・協働的学習に取り組めるよう工夫する。	【達成状況】  <table><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>85.8</td></tr><tr><td>児童</td><td>96.3</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、児童は指標を 10 ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 今年度も、感染症対応により、学年・ブロック内での授業公開、意見交換が大部分であったので、例年より限定的な研修もあった。次年度は、もう少し、広く授業を見合ったり、意見を交換し合ったりしながら、授業力の向上を目指す。 次年度も、きめ細やかな指導等を継続し、保護者には、お便りや懇談会などを通じて、学校での取組状況を紹介する。	教職員	100	保護者	85.8	児童	96.3		
教職員	100									
保護者	85.8									
児童	96.3									
A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上	① 学校図書館司書、ALT と事前打合せや事後の振り返りを共に行う時間を設けることで、より効果的な授業を目指す。 ② かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーとのコミュニケーションをとる時間を設定することで、児童理解や効果的な学習法を共に模索していく。	【達成状況】  <table><tr><td>教職員</td><td>97.1</td></tr></table> 教職員の肯定回答は、指標を達成し、97.1%である。 【次年度の方針】 空き時間や放課後を利用し、打ち合わせを行い、授業をスムーズに展開することができたので、今後も打ち合わせ時間を確保する。 担任と、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーが懇談し、児童にあった支援をすることができたので、今後も継続していく。	教職員	97.1						
教職員	97.1									

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① 学校行事や児童会行事、学年行事などの反省をもとに、より学習効果が効率よく実施できるよう、改善を図る。 ② 教職員一人一人が、勤務時間を意識し、計画的に業務を行うとともに、毎月、学校全体または学年でリフレッシュデーを設定し、時間を意識しながら勤務する。	【達成状況】  教職員の肯定回答は、指標を 21.2 ポイント下回る。 【次年度の方針】 学校・学年・児童会等の行事を精選し、次年度の計画に生かし、実施していく。 業務を厳選し、教材研究や児童と向き合う時間の確保に努める。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	① <u>小学校への乗り入れ授業や児童生徒指導連絡協議会等の実施を通して、児童・生徒の情報交換を行うとともに、学習内容・指導法等の理解を深める。</u> ② <u>卒業生の積極的な行事等への参加を通して、児童の中学校進学への不安感を減らしたり、地域学校園としての所属感を高めたりする。</u>	【達成状況】  地域住民の肯定回答は指標を上回り、教職員は 0.6 ポイント、保護者は 8.8 ポイント児童は 22.4 ポイント下回る。 【次年度の方針】 今年度は感染症拡大防止対策のため、卒業生の行事への参加はできなかった。次年度は、状況に応じて卒業生の積極的な行事参加を働きかけていく。 中学校訪問においては、本年度は実施できなかったが、中学校生活の DVD 視聴をすることで、児童は様子を詳しく知り、不安を取り除くことができた。今後は中学校と訪問体制について協議していく。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 90%以上	① <u>地域の学習素材や人材を積極的に活用し、地域の方々とふれあいながら授業や活動を行うことを通して、主体的に生き方を学ぶ児童の育成をめざす。</u> ② <u>地域内の幼稚園との生活科の授業での交流会や、運動会等の学校行事を通して、幼稚園との連携を強化していく。</u>	【達成状況】  教職員、地域住民の肯定回答は指標を達成したが、保護者は 6.5 ポイント、児童は 3.9 ポイント下回る。 【次年度の方針】 今年度も感染症拡大防止対策のため人材を活用した授業の実践が十分にできなかったが、次年度は、地域協議会の協力を得ながら新たな人材発掘に取り組んでいく。 幼稚園との交流においても、今年度は感染症拡大防止のため、交流が全くできなかったが、次年度は、情報交換を密にして、可能な限り工夫・改善しながら交流していく。

A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 90%以上	① 築瀬地区の各種団体や魅力ある学校づくり地域協議会等の活動を通して、学校と家庭・地域が連携し、地域の教育力を生かした教育活動の充実を図る。 ② 出前授業や夢授業など、地域の人材や企業等と連携した活動を取り入れることで、キャリア教育の充実を図る。	【達成状況】  教職員、地域住民の肯定回答は指標を達成したが、保護者は 6.5 ポイント、児童は 3.9 ポイント下回る。 【次年度の方針】 今年度は、感染症拡大防止対策のため、可能な限りの活動については工夫改善をしながら実施してきた。次年度はさらに可能な手段を見出し、実施していく。 出前授業や夢授業は、会場の変更や人数の制限などを設けて実施したことで教育的効果が上がった。次年度は、体験活動を取り入れるなど工夫して実施していく。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 80%以上	① 教職員による毎月1回の定期環境点検の他、随時異状があった場合には管理職に報告し、危険箇所に対して修繕・撤去等の対策を講じる。 ② 長期休みや行事前の特別清掃・PTAによる親子奉仕活動・毎月行っている教職員による環境点検等、整った環境づくりに向けての活動を実施する。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、地域住民は指標を 10 ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 定期点検や日常の点検を行い、危険箇所の早期発見に努め、引き続き安全に配慮した環境づくりをしていく。 地域住民の方に関しては、学校での取り組みを周知するために、ホームページなどを活用していく。
A25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、I C T 機器や図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	① I C T 機器や図書等を活用して課題を調べる機会を設定し、課題解決に積極的に取り組もうとする態度を育てる。 ② 図書購入計画を立てる際、児童や教職員からの要望や、基準数との比較をもとに、活用のために必要な図書の選定を行う。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、指標を 10 ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 タブレット導入により、I C T 機器は整った。教職員が積極的に研修に参加し、より活用できるようにする。 タブレットが普及したことにより、調べ学習においてタブレットを使用する機会が増えている。図書を使った調べ学習の時間も確保できるよう、図書の選定をしていく。

	B 1 保護者との信頼関係が築かれ、家庭との連携が図られている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、保護者と連絡を密にしながら、指導に当たっている」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%	① 保護者との信頼関係が保てるよう、児童のよい面やよくなったこと等を連絡帳や電話・家庭訪問等で保護者にこまめに伝えるよう努める。 ② 児童の問題行動等については、迅速な対応のために「報・連・相」を行い、組織を機能させ、家庭と連携しながら解決に当たる。	【達成状況】  教職員 100 保護者 76.8 地域住民 100 児童 84.5 教職員、地域住民、児童において、教職員、地域住民、児童の肯定回答は指標を達成したが、保護者は 3.2 ポイント指標を下回る。 【次年度の方針】 児童のよさを見取り、連絡帳や電話で伝えることを、継続して行う
	B 2 児童は自己存在感をもって、居がいのある学校・学級で過ごしている。 【数値指標】 全体アンケート「自分の学級は居心地がよいと思う」 ⇒児童の肯定的回答率 90%	① 児童が居がいのある学校生活を送るために、また児童同士の信頼関係に満ちた温かい学級で過ごせるために、認め励まし合える学級経営を充実させる。 ② 毎時間の道徳の授業を充実させ、よりよい学校生活、集団生活の構築に努める。	達成状況】  教職員 100 保護者 86.1 地域住民 100 児童 89.8 教職員、地域住民の肯定回答は指標を達成したが、保護者は 3.9 ポイント、児童は 0.2 ポイント下回る。 【次年度の方針】 お互いのよさを認める機会を意図的に設定する。自己存在感を高められるよう学級活動を充実させるとともに、これまでの取り組みを継続する。 次年度も 1 回 1 回の道徳の授業を充実させ、児童同士の関わりを深め、学校生活においてよりよい人間関係を作る。
本校の特色・課題等	B 3 思いっきり遊んだり、自分の健康に対する関心を深めたりして、健康的な生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、休み時間等思いっきり遊んだり、自分の健康に関心をもったりして生活をしている。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	① 校庭での遊びの約束を守り、「思いっきり遊ぼう活動」を推進し、休み時間や昼休み等、友達との外遊びを奨励する。 ② 保健便りを毎月 1 回発行して、健康・衛生面を含め、健康に対する関心や家庭の意識の高揚を図っていく。また、養護教諭と連携を図った保健学習を計画的に実施し、充実させていく。	達成状況】  教職員 100 保護者 94.1 地域住民 100 児童 85.6 すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、保護者、地域住民においては、10 ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 ロング昼休み等を活用して「思いっきり遊ぼう活動」を推進し、休み時間や昼休み等、友達との外遊びを継続的に奨励する。 休み時間の外遊びに関して、運動委員会を中心とした活動を来年度も引き続き行っていく。 次年度も継続して保健だよりを毎月発行し、保護者や児童に向けて正しい情報を発信していく。 保健学習に関して、担任と養護教諭の連携を密にし、計画的に実施していく。

B 4 基礎的・基本的な学力を身に付け、学習の習慣化を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、漢字や計算の仕方等を正しく覚え、宿題や自主学習をやっている」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	① 教材研究を進めて分かる授業の実践に努めるとともに、朝の学習や日々の授業、宿題等で計画的に基礎内容の学習に繰り返し取り組ませ、定着を図る。 ② 学年便りや学級懇談会等を通して、継続的に家庭の協力を得ながら学年に応じた宿題を与えたり、自主学習の奨励を行ったりすることで、家庭学習の習慣化を図る。	達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、地域住民においては、10ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 日々の授業では、児童の振り返りから本時のめあてが達成されているかを見取ったり、タブレットを活用したりしながら一人一人に応じた支援をしていく。 次年度も家庭学習の手引きを基に家庭学習の記録用紙を活用し、宿題や家庭学習に進んで取り組めるようにしていく。保護者には、学年だよりや懇談会等を利用し、家庭学習への協力をお願いする。
B 5 読書活動の充実に努め、心豊かな児童の育成に努める。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、自分たちのために、学校や家庭で楽しく読書できるよう、工夫している」 ⇒児童の肯定的回答率 90%以上	① 本に親しむ心を育むために、読書記録カードの活用、校内読書タイムの充実のために、ボランティアや教職員による読み聞かせや本の紹介等の「読書大好き運動」を推進する。 ② 家庭での読書の習慣化を図るために、学校図書館便りの発行や親子読書の推奨等に努める。	達成状況】  教職員、地域住民の肯定回答は指標を達成したが、保護者は 3.1 ポイント、児童は 2.9 ポイント下回る。 【次年度の方針】 児童からのリクエスト図書の購入を次年度も継続し、読書センターとしての機能を充実させるための図書を選定していく。 図書館だよりに家庭で家庭読書の習慣化を図るためのコーナーを設けて、推奨に努める。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1 目指す児童の姿

【数値指標の達成状況】

- ・ 「目指す児童の姿」に関する質問 13 項目中、12 項目で数値指標を達成した。
- ・ 達成した項目の中で、すべての対象において、数値指標を上回る項目は、次の 9 つである。
「進んで学習」「思いやりの心」「きまりやマナー」「時と場に応じたあいさつ」
「健康や安全に気を付けた生活」「英語を使ったコミュニケーション」
「ICT機器や図書等の活用」「高齢者への感謝やいたわり」「健康的な生活」
- ・ 数値指標を達成していない 1 項目は、「宇都宮の良さの理解」である。

【考察及び今後の方向性】

- ・ 達成状況の背景について、教職員が、学校教育目標の具現化に向け、担当学年・学級、校務分掌に応じて指導にあたるとともに、一人一人と集団を育てる教育を実践し、一人一人の思いを引き出したり、相手意識を高めたりしたことがあると考える。
- ・ 数値指標は達成しているが、夢や目標に向かって粘り強く取り組むことに課題があり、児童の努力や成長が分かるカードなどを活用したり、夢に向かう生き方から学ぶ機会を設けたりして、さらなる向上を図る。
- ・ 「宇都宮の良さの理解」を深める取組に着手するとともに、自分や身近なものへの理解を深め、愛着や誇り、自信をより一層もてるようにし、やる気と自己有用感に満ちた児童を育てていく。

2 目指す学校の姿

【数値指標の達成状況】

- ・ 「目指す学校の姿」に関する質問 17 項目中、8 項目で数値指標を達成した。
- ・ 達成した項目は、すべての対象において、数値指標を上回る。
「特別な支援を要する児童への対応」「いじめ対策」「不登校を生まない学級経営」
「外国人児童への実態に応じた支援」「分かる授業やきめ細かな指導」
「職員がチームとして協力」「安全な環境づくり」「ICT機器や図書等の整備」
- ・ 数値指標を達成していない9項目の内容は、次の4つに大きくまとめられる。
「活気のある学校」「居がいのある学校・学級」「家庭、地域との連携」「読書活動」

【考察及び今後の方向性】

- ・ 達成状況の背景について、教職員が、多様な児童の特性や不安、悩みなどに応じることができるよう、学習及び児童指導面において、職務相互に連携し、きめ細かな配慮や工夫をしてきたことがあると考える。
- ・ 「活気のある学校」、「居がいのある学校・学級」に共通するのは、児童の自己存在感、自己肯定感であるとする。集団の中で自分の役割があり、それを果たすことで周りの人から認められる。そして、集団から必要とされている自分に自信をもち、さらに自分らしさを発揮する。このような取組を、学校行事や学級での活動において、意図的・計画的に実践することで、活気と居がいを高めていく。
- ・ 「家庭との連携」について、家庭訪問や学級懇談会で直接、話し合う機会が確保できないことから、連絡帳や電話連絡の際に、児童のよさや成長を伝えるなどして、協力体制を築いていく。
- ・ 「地域との連携」について、地域の教育資源を生かした校外学習は、引き続き、健康、安全に配慮して行っていく。地域ボランティアの参加を得た学習や活動は、実施方法を見直したり、新たな人材を発掘したりして、これまでに近い交流ができるよう努めていく。

7 学校関係者評価

- ・ コロナ禍の中、重点目標をはじめとした目標達成に向けての取組は大いに評価できる。また、次年度の方針についても、実施可能で妥当であるとする。
- ・ 「時と場に応じた挨拶」について、継続的な取組の成果が表れており、下校指導で立って挨拶がとても上手にできるようになっていると感じる。
- ・ 地域の教育力を生かした教育活動について、コロナの影響で、今まで行ってきた行事や地域と連携した取組に制限がかかるようになった。当たり前に行ってきた事業を精査する機会とすればよいと思われる。
- ・ 「宇都宮の良さ」についての学習とともに、まず、自分たちの住む「築瀬地区の良さ」について学習してほしい。住んでいながらも、地区のことについてよく知らないことが多い。生活科や総合との関連を図り、地域を歩いて探検するなどの学習を取り入れてはどうか。
- ・ 「不登校を生まない学級経営」について、指標を達成しており、引き続き、不登校児童が一人でも減るよう努めてほしい。不登校の原因をよく分析し、その子に合った指導をお願いしたい。
- ・ 地域協議会としても、児童が授業において、地域住民とふれ合えるよう協力したい。生活科の昔遊びの学習などで手伝えることがあるので、声をかけてほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

- ・ 活気のある信頼される学校をつくるため、児童のよさを認め伸ばす指導により自己有用感を高め、成長の様子を家庭と共有するとともに、いじめゼロへの取組や不登校を生まない学級経営を引き続き行う。
- ・ 地域とともにある学校づくりに向け、地域の豊かな教育資源を活用したり、児童と地域住民の交流を確保したりする。

【学習指導】

- ・ 児童の学力、学習意欲の向上のため、学校課題の解決に向けた校内研修を通して授業力を高め、ICT環境を活用したり、一人一人に応じたきめ細かな指導をしたりするとともに、職員と児童、児童同士が関わり合いながら学習を深められるようにする。

- ・ 「宇都宮の良さ」を知り、郷土への愛着を深められるよう、「築瀬地区の良さ」を理解する体験活動を取り入れるなどして、宇都宮学を推進していく。

【児童生徒指導】

- ・ 児童が学習規律や基本的な生活習慣を身に付けられるよう、姿勢や態度などについて、職員が同一步調で共通実践したり、生活目標と関連付けたりして、指導を徹底する。
- ・ 児童が相手を思いやり、助け合って生活できるよう、相手意識をもった言葉づかいやあいさつができるようにするとともに、友達や地域などへの感謝の気持ちを伝える場を確保する。

【健康（保健安全・食育）・体力】

- ・ 児童が、健康で安全に過ごせるよう、手洗い、換気などの感染症対策を引き続き行ったり、交通ルールやマナーを守る態度を、家庭・地域の協力を得ながら育てたりする。
- ・ 児童の体力向上、運動習慣の定着に向け、自分の取組や伸びが分かるカードなどを活用して粘り強く取り組む態度を育てたり、校庭での遊びを奨励したりする。